



国民学校1年生のときのノート。隅に描いた兵隊さんがラッパを吹く絵に、担任の石坂先生がクレヨンで色を塗ってくれたのがうれしかった。

## 『昭和20年の記憶』

鈴木順子

昭和20年の夏、警報も解除された真夏の空、どこからともなく、青く雲一つない空に、音もなく飛行機が立川方面に飛んでいく。銀色の大きな機体はB29だと分かった。その時突然現れた小さな飛行機がB29の機体の右側後方に体当たりした。子どもだった私にもそれが日本の飛行機で特攻隊だと分かった。

飛行機は一瞬にして、黒い煙を上げ落下していった。あのもくもくとした黒い煙は今も目に残っている。怖いとか悲しいという感情はなく、ただ一つのシーンとして今も青い空と残っている。小さな日本の飛行機の中には兵隊さんが居たのだと思った気がする。しばらくして河原にアメリカ兵が落ちたと騒いでいるので私は見にいった。しばらく行くと河原の茂みの中に本当にアメリカ兵が落ちていた。私は若いアメリカ兵だと思った。周りを大人や子どもが囲み、その死んだ若い兵隊に向かって小石を投げていた。私は何も感じず見ている。誰からともなく警察が来ると言い出し、その

場を離れた。76年経った今もあの雲一つない真青な空に銀色のB29、それに向かって突進した小さく丸い飛行機と黒煙を忘れることが出来ない。それに対して何の感情も湧かなかったことが今は不思議だ。戦争の悲しさは、それかもしれない！

私は、東京大空襲も日野万願寺の土手に近い我が家から見た。真赤な空に雨の様に降る火のスジ。そして真赤な色が下から起こっているのが見えたのだ。父が、今大変な事が起こっているのだよと言ったのを覚えている。

国民学校5年生、10才の記憶です。

戦争は人の心を失ってしまいます！！

2021年11月21日、日野市、多摩平の森ふれあい館にて録音。  
現在87歳、日野市で戦争を体験し、現在は八王子市に暮らしています。  
家族が日野市・国立市に暮らしています。

「音筆」で右をタッチすると、  
本人による朗読が聞けます。

